指導者（保護者）として大切にしたいこと（その２２）
　　～「将棋・藤井七段のお母さんに学ぶ」～

２０２０年８月吉日
Ｕ１２部会広島地区ＳＶ　大庭　浩資

広島県バスケットボール協会Ｕ１２部会広島地区の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。
また、８月２日に行われた「６年生大会」、１３日～１５日に行われた「リスタートカップ」においては、温かいご支援・ご協力を賜り、本当にありがとうございました。
バスケットボールを愛する子ども達、特に６年生にとっては、夏休みの良い思い出になったことでしょう。
しかし一方で、広島地区においても、新型コロナウイルス感染症の報告が、今だ連日のように続いています。
指導者も保護者も気を緩めることなく、今後も子ども達の安心・安全を第一に考えながら、慎重に活動を行ってまいりましょう。

ところで話は変わりますが、スポーツ界をはじめ、いろいろなジャンルにおいて、次から次へと若い選手が活躍しますね。
幼いころから練習しているから？　でもそれは昔もあったことですよね。科学が進歩し、いろいろなトレーニングが計画的・効率的に行われるようになったこと、指導者自身が多くのことを学ぶことで的確な指導ができるようになったことなど、いろいろな理由が考えられます。
そんな中、先日は、将棋の藤井聡太七段が王位を獲得し、史上最年少２冠記録を２８年ぶりに更新しました。さらに、最年少八段記録を６２年ぶりに塗り替える快挙を達成しました。本当にすごいことですね。（将棋の指し方は知っていても、将棋の世界は全く知らない私にさえ、そのすごさが伝わってきます・・・笑）
藤井聡太七段といえば、テレビのインタビューでの、常に謙虚で高校生とは思えない落ち着いた雰囲気が思い出されますが、小学生の頃は今では想像できない違った一面があったようです。例えば、とても負けず嫌いで、将棋で負けるたびに号泣し、周囲をたいへん困らせたそうです。お母さんしか止められなかったとのことですから、相当、大泣きをしていたのでしょう。また運動、特に陸上が得意で、５０ｍ走のベストタイムは、６秒８だそうです。
そんな藤井少年を、お母様はどのように育てられたのでしょうか？
もちろん、子育てを一言で言い尽くすことはできませんが、ちょうど以下のようなコラムがありましたので紹介します。
これからの子育てやバスケットボールの指導において、何らかのヒントになるかもしれません。

ここに書かれているように、「子どものあるがままを、肯定的に受け止める」ことが、子育て（指導）ではとても大切だと思います。

特にそれは、幼い時期（乳幼児期から小学生くらいの時期）により重要であると感じます。

将棋　藤井聡太七段

～　息子のあるがままを、
肯定的にとらえてきたお母さん　～

将棋界の藤井聡太の活躍ばかりではなく、若い世代の躍進はスポーツ界でも顕著だ。

卓球は女子で伊藤美誠と平野美宇、男子では張本智和らが一大勢力を築く。いずれも２、３歳でラケットを握った。
サッカーでは久保建英が活躍。陸上でもサニブラウン・ハキームが日本選手権１００、２００メートルの２冠を飾った。
さらに女子ゴルフでは、２０歳の渋野日向子選手が全英オープン優勝という快挙。

若き新星が登場するたび、「ならば、うちの子も！」「小さいうちから英才教育を！」と鼻息を荒くするのが親心というもの。

だが、焦りは禁物だ。教育の専門家は「親が引いたレールを走らせず伸び伸びやらせた方が才能は開花しやすい」と話す。

メディアに登場する藤井聡太七段の母、裕子さんの「前に出過ぎない姿」に注目するのは評論家の芹沢俊介さん。

「息子のあるがままを肯定的にとらえてきたように感じる。そのことが藤井さんの安定感を培い、対局での粘り強さにつながっているのではないか」。

幼い時期にしっかりと親に受け止められた経験があれば、子供は自分で関心ある分野に自然と入っていく、と芹沢さんは考える。

危ういのはその逆。「子供の意思を尊重せず、藤井さんが出てきたら将棋、錦織圭さんがすごいからテニス、渋谷さんの活躍を見てゴルフなどと、周りの大人の意向でやらせようとすると、うまくいかないことが多いですよ」と指摘した。